

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	Dual energy CTによる直腸癌術前化学療法の効果予測		
2. 対象患者	当科でDual energy CT検査を受け、術前化学療法後に直腸癌手術を施行された患者さん		
3. 対象となる期間	2015年1月1日		～ 2018年9月30日
4. 実施診療科等	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科		
5. 研究責任者	氏名	三浦 卓也	所属 消化器外科学講座
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	局所進行直腸癌の治癒を目指して、再発減少を期待した集学的治療の導入が試みられています。その中で術後化学療法に比べ高い完遂率がみられる術前多剤化学療法に期待が寄せられる一方、局所縮小効果がみられず結果的に手術時期の遅延と無効化学療法の判明が得られるのみとなる患者さんも存在します。術前画像検査により現在の化学療法無効例の選別が可能となれば、早い段階からの放射線治療の導入やより強力な化学療法の導入を検討する戦略が構築できます。		
8. 研究の目的	Dual energy CTで、化学療法の効果予測が可能になるかの検討を行います。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	Dual energy CT画像、診療録、病理標本を利用し、現病歴、既往歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、CT画像所見、直腸癌の臨床病理所見、術式、合併症などの手術関連情報、病理組織所見、再発などの術後情報を利用します。		
10. 個人情報の保護	患者個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では、(株)ヤクルト本社、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、大鵬薬品工業(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。本研究の利益相反状態については、弘前大学大学院医学研究科医学研究(臨床研究等)利益相反マネジメント委員会の審査を受けています。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 三浦 卓也		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080